

国語 第3学年 本は友だち

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。本で確かめた知識を相手に伝え、読書から得た気付きの違いを共有する。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名「本は友だち」 教材名「本で知ったことをクイズにしよう / 鳥になったきょうりゅうの話」

2 単元の目標

幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。〔知識及び技能〕(3)オ)

文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。〔C(1)力〕

本で確かめた知識を相手に伝え、読書から得た気付きの違いを共有する学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。〔知識及び技能〕(3)オ)

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。〔C(1)力〕

〔主体的に学習に取り組む態度〕①本で確かめた知識を相手に伝え、読書から得た気付きの違いを共有する学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本で確かめた知識を相手に伝え、読書から得た気付きの違いを共有する。この教材では、自作クイズと根拠となる本の記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

答えが本で確かめられる範囲の問いにする。図や本文は複製せず、自分の言葉で問題と説明を書く。想定する難しさは、難しい問題を作ることを目標にし、本の根拠を示さない。評価では、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いているかを、自作クイズと根拠となる本の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全5時間）

第1次 第1時：○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見通しをもつ。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時：○教材や選んだ科学読み物を読み、知ったことと出典を記す。必要な語や材料を集め、関係を整理する。 評価：知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）

第3次 第3～4時（本時）：○教材や選んだ科学読み物を読み、知ったことと出典を記す。本文から答えを確か

められる自作クイズを作り、答え合わせの際に驚いた点や新しく知った点を伝え合う。 評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

第4次 第5時：○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。 評価：態①（学習前後の記録と見直しの理由）

6 本時の指導（3／5）

（1）本時の目標

文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（C(1)力）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。

○「答えの根拠は、本のどの説明にありますか」

【めあて】本で確かめた知識を相手に伝え、読書から得た気づきの違いを共有する。

予想される児童の反応：・正解だけでなく理由も読むと分かった。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「答えの根拠は、本のどの説明にありますか」

教材や選んだ科学読み物を読み、知ったことと出典を記す。本文から答えを確かめられる自作クイズを作り、答え合わせの際に驚いた点や新しく知った点を伝え合う。

選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。

予想される児童の反応：・正解だけでなく理由も読むと分かった。

・友達は別の説明に注目していた。

指導上の留意点：答えが本で確かめられる範囲の問いにする。図や本文は複製せず、自分の言葉で問題と説明を書く。

想定する難しさ：難しい問題を作ることだけを目指し、本の根拠を示さない。

評価では、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いているかを、自作クイズと根拠となる本の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

自作クイズと根拠となる本の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・友達は別の説明に注目していた。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「答えの根拠は、本のどの説明にありますか」。中央は、自作クイズと根拠となる本の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

